【報告要旨】

中国製造業プラットフォームの発展―瀋陽機床集団を事例に
The Development of China's Manufacturing Platform: A Case Study of Shenyang Machine Group

立命館大学経済学研究科
博士後期課程
徐　鈺蕊

本研究の目的は、プラットフォーム理論を押さえ、中国における製造業プラットフォーム発展の特徴の分析に基づいて、中国国有大型企業である瀋陽機床集団のプラットフォーム化の発展過程、その内実と特徴を解明することである。21 世紀に入ってから、世界では、アメリカと中国のプラットフォーム企業が情報サービス企業として世界経済に大きな影響を与えてきた。他方、インダストリー4.0 の波の下で、デジタル化の推進のなかで、プラットフォーム化は伝統的な製造業にも浸透しつつある。伝統的な製造業がプラットフォームと融合して、製造業の本質的な変化とアップグレードを実現し、国際競争力も強化することができる（呂,陳,劉,2019）。

ここでは、中国トップレベルである大型国有工作機械企業の瀋陽機床集団に注目する。工作機械産業は一国の技術水準を決定するからである。2000 年代、瀋陽機床集団は直接的な対外投資戦略によって大規模化を進めてきたが、2000 年代後半になっても、中国の工作機械産業を悩ませてきた「ハイエンド陥落、ローエンド乱闘」の問題の中に埋没し、そこから抜け出せなかった。このような状況の中で採用されたのがプラットフォーム化戦略である。2007 年以降、瀋陽機床集団はプラットフォームを構築し始め、2015 年に独自の製造業プラットフォーム isesol を立ち上げ、そして智能雲科情報技術有限公司という子会社を創設した。この智能雲科はデジタル工場、ネット市場、リース事業というプラットフォーム機能を有している。詳細な企業情報のアクセスには限界があるものの、どのように上記の 3 つの機能を活用しているのか、どのようなエコシステムを構築しているのかを解明していく。そのことによって、中国伝統製造業のプラットフォーム化の優位性と問題点を、そしてそこから中国製造業の発展及び中国経済全体の更なる発展の可能性と問題点を解明していきたい。

参考文献：

呂文晶･陳勁･劉進.(2019),「工業互聯网的智能制造模式与企業平台建設―基于海爾集団的案例研究」『中国軟科学』(7),13.